

# 四半期報告書

(第41期第3四半期)

自 平成20年10月1日

至 平成20年12月31日

エスアールジータカミヤ株式会社

大阪市北区茶屋町19番19号

(E05493)

# 目 次

	頁
表 紙	
第一部 企業情報	
第1 企業の概況	
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2
3 関係会社の状況	2
4 従業員の状況	2
第2 事業の状況	
1 生産、受注及び販売の状況	3
2 経営上の重要な契約等	3
3 財政状態及び経営成績の分析	4
第3 設備の状況	5
第4 提出会社の状況	
1 株式等の状況	
(1) 株式の総数等	6
(2) 新株予約権等の状況	6
(3) ライツプランの内容	6
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	6
(5) 大株主の状況	6
(6) 議決権の状況	7
2 株価の推移	7
3 役員の状況	7
第5 経理の状況	8
1 四半期連結財務諸表	
(1) 四半期連結貸借対照表	9
(2) 四半期連結損益計算書	11
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	13
2 その他	20
第二部 提出会社の保証会社等の情報	21

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成21年2月13日
【四半期会計期間】	第41期第3四半期（自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日）
【会社名】	エスアールジータカミヤ株式会社
【英訳名】	SRG TAKAMIYA CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 高宮 一雅
【本店の所在の場所】	大阪市北区茶屋町19番19号
【電話番号】	06（6375）3900（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 経理部部长 安田 秀樹
【最寄りの連絡場所】	大阪市北区茶屋町19番19号
【電話番号】	06（6375）3900（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 経理部部长 安田 秀樹
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第41期 第3四半期連結累計期間	第41期 第3四半期連結会計期間	第40期
会計期間	自平成20年4月1日 至平成20年12月31日	自平成20年10月1日 至平成20年12月31日	自平成19年4月1日 至平成20年3月31日
売上高（千円）	11,576,095	3,873,794	15,129,474
経常利益（千円）	1,288,822	374,166	1,950,232
四半期（当期）純利益 又は四半期純損失（△）（千円）	212,990	△159,316	888,411
純資産額（千円）	—	5,393,767	5,421,027
総資産額（千円）	—	25,944,823	23,559,822
1株当たり純資産額（円）	—	479.35	481.48
1株当たり四半期（当期）純利益金額 又は四半期純損失金額（△）（円）	19.24	△14.40	79.71
潜在株式調整後1株当たり四半期（当 期）純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（％）	—	20.4	22.7
営業活動による キャッシュ・フロー（千円）	△1,067,335	—	37,435
投資活動による キャッシュ・フロー（千円）	△753,559	—	△1,047,982
財務活動による キャッシュ・フロー（千円）	2,812,558	—	326,592
現金及び現金同等物の四半期末（期末） 残高（千円）	—	2,168,734	1,177,071
従業員数（人）	—	443	463

（注） 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 第40期及び第41期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 第41期第3四半期連結会計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動は、「3. 関係会社の状況」に記載の通りです。

## 3【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、以下の会社が新たに提出会社の連結子会社となりました。

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
連結子会社 ㈱青森アトム	青森県下北郡東通村	10,000	仮設機材レンタル 部門	100.0	当社から仮設機材をレンタル・販売しております。 役員の兼任3名

(注) 主要な事業の内容欄には、事業部門別の名称を記載しております。

## 4【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成20年12月31日現在

従業員数(人)	443
---------	-----

(注) 従業員数は就業人員数であります。なお、臨時従業員数は、その総数が従業員数の100分の10未満のため記載を省略しております。

### (2) 提出会社の状況

平成20年12月31日現在

従業員数(人)	346
---------	-----

(注) 従業員数は就業人員数であります。なお、臨時従業員数は、その総数が従業員数の100分の10未満のため記載を省略しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【生産、受注及び販売の状況】

#### (1) 生産実績

当社グループの主たる業務であります「建設用仮設機材のレンタル事業」は、提供するサービスの性格上、生産実績の記載に馴染まないため、当該記載を省略しております。

#### (2) 受注状況

当社グループが顧客企業と締結している契約に規定されているのは、料金算定の基礎となる単価及び概算の見積金額であり、受注金額の算定に必要なレンタル期間や滅失機材の数量等については、工事の進捗状況や使用状態により変動いたします。従いまして、受注金額を確定することが困難な状況であるため、当該記載を省略しております。

#### (3) 販売実績

当第3四半期連結会計期間の販売実績を事業部門別に示すと、次のとおりであります。

区分	当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)
仮設機材レンタル部門（千円）	3,873,742
その他部門（千円）	51
合計（千円）	3,873,794

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 仮設機材レンタル部門には、商品売上高を含んでおります。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態及び経営成績の分析】

#### (1) 経営成績の分析

当第3四半期連結会計期間におけるわが国経済は、世界的な金融危機による株式市場の低迷や急激な円高進行により企業業績が一段と悪化するなど、実態経済への影響が加速し景気後退感が一層強まる状況となりました。

当仮設機材レンタル業界におきましては、民間工事関連において、企業の設備投資計画の延期や中止により工事が減少し、マンション等の住宅関連の需要も減退してまいりました。加えて建設・不動産関連企業の資金調達環境の悪化による倒産の影響もあり、受注環境は厳しい状況となりました。

このような環境下で、当社グループは、保有機材の品質向上のための入れ替えと、安全性、施工性に優れた高付加価値機材の採用を進め、長期安定供給に取り組み競合優位性を高めるとともに、プラント工事関連をはじめ新規分野の開拓にも努め、シェアアップに注力してまいりました。

売上面では補修、メンテナンス工事に関連した受注が引き続き安定的に推移し、土木・橋梁工事関連の繰延分の受注も継続したことにより、マンション等の住宅関連の低迷をカバーし、堅調に推移いたしました。利益面では、採算性を重視し安定供給による単価維持に努めてまいりましたが、取引先の経営破綻等があり、減益要因となりました。

これらの結果、当第3四半期連結会計期間の売上高は、3,873,794千円となり、営業利益は、貸倒実績率の上昇等による貸倒引当金繰入額170,343千円を販売費及び一般管理費に計上したこと等により448,505千円、経常利益は374,166千円となりました。また、前述の破綻債権の回収不能見込額581,486千円を貸倒引当金繰入額として特別損失に計上したこと等により、四半期純損失159,316千円となりました。

#### (2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、25,944,823千円となり、前連結会計年度末と比べ2,385,001千円増加いたしました。この主な要因は、現金及び預金の増加972,863千円、受取手形及び売掛金の減少370,182千円、商品の増加200,729千円、賃貸資産の増加1,020,205千円、土地の増加387,501千円等によるものであります。

負債合計は、20,551,056千円となり、前連結会計年度末と比べ2,412,261千円増加いたしました。この主な要因は、短期借入金の増加2,600,000千円、未払法人税等の減少653,431千円、長期借入金の増加742,936千円等によるものであります。

純資産合計は、5,393,767千円となり、前連結会計年度末と比べ27,260千円減少いたしました。この主な要因は、利益剰余金の減少8,790千円、自己株式の増加21,798千円等によるものであります。

#### (3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間における現金及び現金同等物は、短期借入金の純増額、長期借入れによる収入等があったものの、賃貸資産の取得による支出、長期借入金の返済による支出等があったことにより、2,168,734千円となりました。

当第3四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、380,026千円の支出となりました。主な要因は、減価償却費621,842千円、貸倒引当金の増加749,959千円等があったものの、税金等調整前四半期純損失231,031千円、賃貸資産の取得による支出1,060,857千円、売上債権の増加額106,644千円、法人税等の支払額362,422千円等があったことによります。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、252,306千円の支出となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出228,047千円、投資有価証券の取得による支出27,372千円等があったことによります。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、1,523,207千円の収入となりました。主な要因は、短期借入金の純増額900,000千円、長期借入れによる収入1,700,000千円があったものの、長期借入金の返済による支出1,028,025千円、社債の償還による支出40,000千円等があったことによります。

#### (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

#### (5) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

①重要な設備計画の変更

前四半期連結会計期間末において計画中であった重要な設備の新設計画について、当第3四半期連結会計期間における重要な変更はありません。

②重要な設備計画の完了

前四半期連結会計期間末において計画中であった重要な設備の新設計画のうち、当第3四半期連結会計期間に完了したものは、次のとおりであります。

会社名 事業所名	所在地	事業部門	設備の内容	投資額 (千円)	完了年月	完成後の 増加能力
当社 青森東通センター	青森県下北郡 東通村	仮設機材レンタル 部門	機材センター新設	64,670	平成20年12月	約7,000㎡

(注) 上記金額には、消費税等は含んでおりません。

































## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年2月10日

エスアールジータカミヤ株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 早川 芳夫 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 平岡 義則 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているエスアールジータカミヤ株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、エスアールジータカミヤ株式会社及び連結子会社の平成20年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

**【表紙】**

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成21年2月13日
【会社名】	エスアールジータカミヤ株式会社
【英訳名】	SRG TAKAMIYA CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 高宮 一雅
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	大阪市北区茶屋町19番19号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長高宮一雅は、当社の第41期第3四半期（自平成20年10月1日 至平成20年12月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。